

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-1-060
補助事業名 平成26年度国内スポーツ競技力向上のための補助事業
補助事業者名 公益財団法人 日本オリンピック委員会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

オリンピック・ムーブメント事業は、国民にオリンピックへの関心を高め、オリンピックの価値を体感、理解してもらい、国民一人一人がオリンピック・ムーブメント活動を主体的に推進する社会を目指すことを目的に事業展開をする

(2) 実施内容

1. オリンピック教室・オリンピック親子チャレンジ

〔オリンピック教室〕

平成21年4月に新学習指導要領が公示され、中学校3年生の保健体育「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されたことを受けて、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、オリンピックを教師役として派遣し、運動の時間（体育館）＋座学の時間（教室）の2時限を授業形式でオリンピック教室を実施した。

授業では、オリンピックがオリンピック大会出場に至るまで、或いは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、オリンピックの価値等を伝えた。



〔オリンピック親子チャレンジ〕

家庭という視点から、親と子がオリンピックと共に一緒に様々なプログラムにチャレンジしオリンピックの価値等を伝える事業で、平成26年度は東京オリンピック50周年の要素を盛り込んだオリエンテーリングを実施、2020大会への期待感も醸成しつつ、頑張ることの大切さや達成感を体験してもらった。



2. オリンピックコンサート

ソチオリンピック冬季大会後の開催となった今回は、ソチの感動映像を盛り込みながら、幻想的なオリンピック映像と共にフルオーケストラとの共演で、スポーツと音楽の相乗効果によるオリンピックがもつ価値への理解やオリンピックファンへの応援気運の醸成などを狙った。

昨年同様、東京国際フォーラム・ホールAで開催し、スポーツファンに加え音楽ファンにも理解と支援をいただけるよう、より映像とのマッチングを考慮した名曲を選曲したコンサートを開催できた。

また、歓喜の習慣のみならず、幼少期や支えてくれた人たち感謝など、映像構成の中で、オリンピックの価値につながるテーマを来場者に伝えるよう心がけた。



3. JOC公式サイト運営・広報誌製作

〔JOC公式サイト運営〕

平成26年度は、

- ①若者層に重点をおいたオリンピック・ムーブメントの認知拡大
- ②東京オリンピック50周年特集等
- ③2020年に向けた国内外への情報発信も見据えて事業を実施。

特に、「訪問者数」「一人あたりの閲覧ページ数」「再訪問率」の増加を図るため、PCやスマートフォン等の複数の端末での対応や外部連携による情報のオープン化・誘導強化も継続して行った。

〔広報誌製作〕

年1回発行するオリンピックに関連した情報を提供する広報誌は、JOCが実施するオリンピック・ムーブメント事業の参加者を中心に直接配布し、特に、青少年への理解浸透を念頭とした企画構成で製作している。

今回は、東京オリンピック50周年記念を特集し、幅広く楽しめる内容で企画・構成し、発行した。



2 予想される事業実施効果

1. オリンピック教室・オリンピック親子キャンプ

〔オリンピック教室〕

オリンピックの価値である「エクセレント」、「フレンドシップ」、「リスペクト」を中心に、自らの経験で得たことを生徒に伝えるとともに、生徒の日常生活にも活かすことができるものであることを、グループワーク等を通じて気づきを促し、さらに、こうした考えかたがあるからこそオリンピックに価値が見いだせることを生徒自身に学習してもらった。

授業終了後の生徒からのアンケートからは、日常生活の中にもオリンピックの価値と共通することがあることに気づけた。スポーツやそれ以外の生活の中でも目標に向かって努力することの大切さが分かった。生徒の真剣なまなざしが印象に残った。などの意見もありこの授業の主旨がきちんと伝わっていると思われる。

〔オリンピック親子チャレンジ〕

オリンピックとの濃厚な1日の共同体験を通して、頑張ることから生まれる一体感や喜びを共有することができた。参加者からのアンケートでは、

- ・「オリンピックが気さくに接してくれたことで、心から楽しめた。スタート時は親主導型であったが、途中こどもの口から『みんなのために頑張ろう』『勇気が出てきた』など言葉が発せられ、最後は親が励まされた」(保護者)
- ・「今日1日、体と頭をふるに使うって本当に楽しかった。みんなで決めた目標をオリンピックと一緒に達成できて思い出に残った」(子)

など、参加者にはただ楽しむだけでない、この事業の主旨がしっかり伝わった。

2. オリンピックコンサート

潜在的なオリンピックファン及びスポーツファンの開拓や周知に繋がっているほか、ゲストアーティストを目的とした来場者が新たなファンになる可能性も増えている。

参加者のアンケート(1, 112回答/回収率23.9%)では、

- ・「オリンピックと文化(芸術)のイベントがもっとあるとよい。双方向に良い影響がありそう。」(40代女性)
- ・「正直、はじめはオリンピックに興味も無く、勝者、敗者となるスポーツは嫌いだった。ゲストを目的に来場したが、あまりの感動に涙がとまらず、このコンサートでスポーツに対する想いを新たにした。」(20代女性)
- ・「映像と音楽、歌のコラボレーションが素晴らしかった。」(50代女性、他同意見44)
- ・「2020年がとても楽しみになった。期待している。」(他同意見6)

など多数の意見が寄せられた。総合的に「大変よかった」、「よかった」を合わせると9割以上の満足度が得られた。

7月5日には、NHK地上波(総合/60分ダイジェスト版)で、8月23日NHKBSPレミアム(90分)が放送され、日本全国の視聴者へ発信することができた。

3. JOC公式サイト運営・広報誌製作

〔JOC公式サイト運営〕

若年層を中心に、スマートフォン、タブレットの利用率が上昇しており、今後も上昇傾向にある。今後もそれらを見据えた施策を継続して模索しつつ、先を見据えた施策を展開していく必要がある。

〔広報誌製作〕

1964年の東京オリンピック大会から50周年の節目と26年度は、50周年記念事業に合わせてその効果が図れる内容、時期で発行することができた。

(別紙5)

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

<http://www.joc.or.jp/olympian/>

広報誌：オリンピック (30,000部)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 日本オリンピック委員会 (コウエキザイダンホウジン
ニホンオリンピックイインカイ)

住 所： 〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

代 表 者： 会長 竹田恒和 (カイチョウ タケタツネカズ)

担 当 部 署： 財務部 (ザイムブ)

担 当 者 名： 主事 安達和重 (アダチカズシゲ)

電 話 番 号： 03-3481-2296

F A X： 03-3481-0977

E - m a i l： k-adachi@joc.or.jp

U R L： <http://www.joc.or.jp/>